

平成 21 年度後期シラバス *授業内容・日程は変更となる場合があります

■コミュニティ・プロジェクト実習 I (2 単位)

(後期開講：土曜日 3 限～5 限 13:10～18:00 (各ゼミでの調整による))

<授業のねらいと内容>

この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。

具体的には以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。

- ・地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。
- ・デザインシャレットやワークショップといった集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。
- ・大量の情報や議論をうまく扱い、より広範囲の選択肢を示しながら、容易ではない合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。
- ・コスト、日程、法規、材料、技術、自然環境といった与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。
- ・現実のプロジェクトで起こりがちな未知のことに遭遇し対処していくことで体得できる、問題解決に対する即応性や柔軟性。

<コアスタッフ>森川稔、鶴飼修

<授業計画>

前期終了後に受講生対するヒアリングを行い課題プロジェクトを決定する。課題プロジェクトは、受講生が実務で直面している課題をプロジェクトとして位置づけるケースと、教員が実施しているプロジェクトへの参画するケースのいずれかが選択可能である。

授業は、第 1 回目にオリエンテーションを行い、配属ゼミ、指導教員を決定し、目標設定を行う。その後、定期的にゼミを実施し、プロジェクトの企画、進行状況等についてゼミ担当教員から指導を受け、ゼミ生同士の意見交換を行う。また、適宜、指導教員に報告を行い、指導を受ける。12 月中旬に全体での中間報告会を行い、学期末に、成果発表会、講評会を行う。プロジェクト報告書やポートフォリオを作成し成果を公開する。

なお、プロジェクトによっては、地域の事情に応じて実施時期を調整することがある。

<成績評価>

評価は、発表会、ゼミへの出席状況と、評価シートに基づく自己評価・指導教員の評価により行う。

<指導体制>

- ・指導教員：受講生が取り組む地域プロジェクトの指導に適した本学内外の教員
- ・ゼミ担当：森川 稔、鶴飼 修

<平成 20 年度実習事例>

【上板並における地域資源を活用した集落再生】 フィールド：米原市上板並地区 実施者：Bコース

地域診断で実施した調査内容を踏まえて、地域に入り地域再生活動を実践。地域資源である炭焼きの文化を活用して都市農村交流を実践。

【大学と地域をつなぐ学生食堂サラダBAR計画】 フィールド：豊郷町 実施者：Aコース

地域の空きビニールハウスと元気な高齢者という地域資源と連携した地域活性化プロジェクト。大学生協と連携し、サラダ用のベビーリーフを生産・納入する事業スキームを作成し実践。

【近江ワザ回廊WEBの製作】 フィールド：県内各所 実施者：Aコース

県内伝統文化の継承をWEBを利用して支援するプロジェクト。県文化振興財団や民間企業と連携しHPを立ち上げ。

【地域材によるマンション再生】 フィールド：県内全域 実施者：Bコース

県内の森林とマンションを同時に再生させる切り口で、需要調査を実施し、マンション再生の事業スキームを提案。

【信楽人物マッププロジェクト】 フィールド：信楽地域 実施者：Aコース

信楽地域の活性化策として地域資源である人財に着目。「陶器産地に生きる顔」をテーマにカード形式の人物マップを製作し、ネットワーク構築を支援。